



●巻頭インタビュー



ジョン万次郎

ジョン万次郎とホイットフィールド船長交流秘話
第19回日米草の根交流サミットみやぎ大会



ホイットフィールド船長

今回の倶楽部MIAでは、去る7月29日～8月3日に宮城県で開催された「第19回日米草の根交流サミットみやぎ大会」(主催:同実行委員会/大会名誉会長村井嘉浩宮城県知事)のオープニングセッションのなかで行われた記念シンポジウム「中濱家とホイットフィールド家、168年の交流秘話」の様様をご紹介します。

このサミット大会は、約170年間にわたるジョン万次郎とホイットフィールド船長の子孫の交流を日米市民交流の象徴として実施しているもので、(財)ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター(東京)と開催地ボランティアによって結成される実行委員会とが協力して運営する形式をとり、日米双方の多くの参加者が、素顔の日本・素顔のアメリカに触れ、草の根交流を築き上げています。

日時:平成21年7月29日(水)

場所:ホテル松島大観荘(宮城県松島町松島)

スピーカー:中濱家五代目 中濱 京氏

ホイットフィールド家六代目 スコット・ホイットフィールド氏

モデレーター:株式会社日本国際放送代表取締役社長/財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター評議員 高島 肇久氏

通訳:千葉 紀子氏



高島 肇久氏

高島氏: このサミットは江戸時代後期の日本人少年、ジョン万次郎とアメリカ捕鯨船のホイットフィールド船長との運命的な出会いと、その後の両家の交流に由来しています。万次郎は、船長の庇護のもとアメリカで教育を受けた後日本に帰り、日本の開国と近代化に大きく貢献しました。二人の絆は世代を超えてそれぞれの子孫に受け継がれています。日米関係の歴史的な原点である万次郎と船長の友情を、中濱京さん、スコット・ホイットフィールドさんにそれぞれの家に伝わる逸話のいくつかを紹介していただき、日米関係を草の根レベルで発展させていくための示唆を得られたらと願っています。

中濱氏: 万次郎は四国で生まれ、1841年、14歳で漁船に雇われ漁に出ます。突然の嵐にあい無人島でサバイバル生活をしていたところ、アメリカの捕鯨船があらわれ救出されました。船長の名前はウィリアム・ホイットフィールド。船長は万次郎をアメリカへ誘い、万次郎はこれに喜んで同意しました。万次郎は、学校へ通わせてもらい、航海術や高等数学などを学び、この知識を生かし10年後には一等航海士にまでなりました。1952年、25歳でようやく念願の帰国を果たした後は、ペリーの再来日に備える幕府に対し、アメリカ人について詳しく話をしたり、勝海舟や福沢諭吉たちとともに咸臨丸に乗り、操船を行ったりもしました。

万次郎はその生涯を通じて、船長から教えられた隣人愛をごく自然に示し、誰とでも上下の隔てない付き合いを続け、1898年71歳で亡くなりました。

中濱ホイットフィールド両家の交流は、現在も続いています。太平洋戦争

中は文通もできませんでした。終戦直後は、まるで親兄弟の安否を心配するような4代目ウィラードさんの依頼を受けて、軍服姿のアメリカ兵が中濱家の様子をよく見に来ました。また、万次郎が暮らしたのは、マサチューセッツ州フェアヘブンの船長の家でしたが、今年5月7日、「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」の開設式が行われ、両家も式典に参加しました。



中濱 京氏とスコット・ホイットフィールド氏

私が両家の先祖たちからいつも教えられることは、人間対人間の愛・友情は、国や時代を越えて普遍であるということです。

スコット・ホイットフィールド氏: ホイットフィールド船長はマサチューセッツ州のフェアヘブンで生まれ、15歳から船乗りとして数多くの航海を経験し、船長としても経験を積みます。妻を亡くしたばかりの36歳のとき、日本の鳥島で偶然万次郎たちを発見しました。おそらく妻も子もない孤独さもある、明るくて利発な万次郎少年に心を奪われたのでしょうか。船長は、彼をアメリカへと誘います。

マサチューセッツに戻ってから間もなく船長は再婚し、万次郎は養子となりました。学業を終え、一人前の船乗りとなった万次郎の成長ぶりは、船長にとって大きな誇りでした。その後、万次郎は日本へ帰国しましたが、1870年、万次郎が日本政府を代表して外交のためニューヨークを訪問中には、数日かかる道のりを船長に会いに来ました。二人が一緒に過ごせたのは、たった一晩でしたが、その夜は二人とも一睡もしなかったと聞いています。その後も二人は文通していましたが、お互いに出会えたのがこれが最後だったそうです。船長は、1886年、マサチューセッツ州ベッドフォードにて永眠しました。

船長と万次郎によって築かれた両家の友情は、今日もかたい絆で結ばれています。

皆様には、このサミット大会にて、このすばらしい歴史的一幕を経験していただきたいと思います。ここで友情が芽生えた友人がいつか家族の一員と思える存在になるかもしれないのです。すべての始まりは、人に対する思いやりの行動なのです。



マシュー・ペリー氏

また、この記念講演では、ペリー提督の子孫、マシュー・ペリー氏のゲストスピーチもありました。ご自身が、40年前にアメリカ海軍の将校として来日したときの印象や、幕末に日米間の架け橋となったペリー提督の偉業、そして日米は変わらぬ寛容な親しい友人であり続けることを願っているといった内容をスピーチされました。

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2009年10月～11月の活動予定をご紹介します。

MIAイベントカレンダー

2009	10	S	M	T	W	T	F	S
						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	

2009	11	S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5	6	7
		8	9	10	11	12	13	14
		15	16	17	18	19	20	21
		22	23	24	25	26	27	28
		29	30					

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話番号

FAX: FAX 番号

メールアドレ

10月 OCTOBER

3～4日

みやぎのふるさとふれあいin美里町

美里町国際交流協会

☎ 0229-33-2113

FAX 0229-33-2402

4日

2009国際交流まつりinわたり

国際交流協会わたり

亘理町中央公民館

🕒 11:00～14:30

🎫 不要

💰 無料

☎・FAX 0223-32-2747

芋煮を囲んで国際交流

栗原市国際交流協会

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

🕒 11:00～(雨天決行)

☎ 電話

💰 参加一家族1,000円

個人500円

☎ 0228-32-6789

FAX 0228-32-2113

10日

2009東北大韓人留学生運動会

東北地区韓人留学生会

宮城県消防学校運動場

🕒 10:00～17:00

🎫 不要

💰 無料

☎ 080-3148-4977(ソンドギョン)

✉ ssongdy@mail.tagen.tohoku.ac.jp

10～11日

みやぎのふるさとふれあいin利府町

利府町国際交流協会

☎ 022-767-2113

FAX 022-767-2100

11日

みやぎのふるさとふれあいin村田町

村田町国際交流協会

☎ 0224-83-2112

FAX 0224-83-5740

15日

ケニア乾燥地に暮らす牧畜民

アフリカ・セミナーの会

仙台国際センター研修室

🕒 10:00～12:00

🎫 不要

💰 700円

☎・FAX 022-362-7907

18日

講演会:子どもの時間を取り戻す

～バングラデシュの家事使用人として働く少女への支援活動

シャプラニール仙台・ポンドウの会

仙台国際センター研修室

🕒 14:00～16:00

🎫 不要

💰 300円

☎・FAX 022-377-1407(原)

✉ yhara50jan31@ma.mni.ne.jp

日中友好芋煮会

宮城県日中友好協会青年委員会

広瀬川牛越橋付近

🕒 10:00～13:00

☎ 電話・FAX・Eメール

☎・FAX 022-274-3811

✉ jcfa-miyagi@roze.plala.or.jp

第7回トルコのタベ

トルコの影絵芝居「カラギョズとハジバット」

仙台日本トルコ協会

仙台市民会館 展示室

🕒 19:00～20:50(18:45開場)

🎫 要チケット購入

💰 3,000円(当日3,500円)

☎ 022-213-7767

(アブロードランゲージセンター)

✉ sendai@ablc.jp

19日

いも煮会(在住外国人対象)

国際サークル友好21

矢本海浜緑地公園(東松島市)

🕒 10:00～13:00

🎫 10月16日まで

国際サークル友好21事務局へ

💰 無料

☎・FAX 0225-23-2863

21日

申請取次行政書士による外国人のための入管
手続無料相談会

宮城県行政書士会

仙台市青葉区役所4階市民相談室

🕒 13:00～16:00

☎ 電話での受付もOK、または予約なしでも

OK

💰 無料

☎ 022-261-6768

FAX 022-276-2258

31日～11月1日

みやぎのふるさとふれあいin石巻市(河南)

石巻市国際交流協会河南支部

☎ 0225-72-3561

FAX 0225-72-3707

11月 NOVEMBER

1日

全日本中国語スピーチコンテスト

宮城県日中友好協会

東京エレクトロンホール宮城

(宮城県民会館)601会議室

🕒 14:00～16:30

🎫 スピーチ出場希望者は申込書などを

10/7まで郵送。

一般参加者(観覧)は事前申込不要。

💰 スピーチ参加者は1,000円。

一般参加者は無料。

☎・FAX 022-274-3811

✉ jcfa-miyagi@roze.plala.or.jp

第3回おおさき国際交流いも煮会

大崎外国人相談センター

化女沼 古代の里

🕒 11:00～14:00

🎫 不要

💰 無料

☎ 0229-22-2181

FAX 0229-22-2195

3日

「音楽を通して見た国際理解」第3回
身近で活かそう～宮城県の学校における
実践例～

JICA・宮城教育大学

宮城教育大学2号館220教室

🕒 13:30～16:00

🎫 要申込

💰 無料

☎ 022-275-5540

✉ jicadpd-desk-miyagiken@jica.go.jp

7日

MIA Friendship Family Program
「みやぎの自然環境スタディツアー」

財団法人宮城県国際交流協会

栗原市伊豆沼ほか

🎫 「@MIA」欄参照

💰 無料

☎ 022-275-3796

FAX 022-272-5063

✉ mia@k2.dion.ne.jp

14日

第15回 世界食料デー 仙台大会

世界食料デー 仙台大会委員会
日本キリスト教団 仙台青葉荘教会
14:00~16:00
自由参加
無料
☎・FAX 022-378-3144

18日

**申請取次行政書士による外国人のための入管
手続無料相談会**

宮城県行政書士会
※10/21に同じ

19日

アフリカ大陸の湖

アフリカ・セミナーの会
仙台国際センター研修室
10:00~12:00
不要
¥700円
☎・FAX 022-362-7907

23日

国際交流パーティー

塩釜国際交流しおの会
塩釜公民館
11:00~14:00
不要
無料
☎ 022-362-8765



《MIA ニュカマーのための生活対応支援プログラム》進行中!

宮城県国際交流協会では、定住外国人の増加に対応するため、来日間もない海外出身の方々を対象とした「生活対応支援プログラム」を企画、実施中です。

具体的には、保健・医療システムについての説明会、ごみ分別学習、防災訓練、就職活動支援などで、いずれも地域で暮らすうえで必要なことを専門家を講師に招き通訳を交えて学ぶものです。これまで実施したプログラムと、今後予定されているプログラムを併せてご紹介いたします。

■「保健・医療説明会」

去る6月16日に宮城県の保健師を講師に招き、健康診断やインフルエンザ対策、病院のかかり方について学びました。参加者は、4か国20名でした。

■「ごみ分別とリサイクル施設体験研修」

去る7月6日に青葉環境事業所の協力のもと、ごみ分別講座と宮城野区にあるリサイクル施設見学を行いました。参加者は、5か国32名でした。

□「防災について学ぶ会」

日時 平成21年10月26日(月)
8:00~18:00
(仙台駅集合、解散)
研修会場 唐桑ビジターセンター、
気仙沼本吉広域防災センター

□「就職活動支援講座」

日時 平成21年11月10日(火) 13:00~
研修会場 宮城県国際交流協会
交流ラウンジ



「リサイクル施設を見学し、ごみ分別の重要性を再認識しました」

一言PR

「お茶の間を通じた国際交流」 MIA Friendship Family Programの紹介

**MIAでは、留学生と交流家庭の
出会いの場を提供しています!!**



宮城県国際交流協会(MIA)では留学生と交流家庭をつなぐ「MIA Friendship Family Program(旧名称:留学生交流促進事業)」を行っています。本事業は3年前までは県からの受託事業として行ってきましたが、平成19年度からはMIA独自の事業としてリニューアルし、今年度より名称もMIA Friendship Family Programと新たにしました。

宮城県内で学んでいる、国籍、年齢なども多様な留学生たちは、言葉も習慣も異なる生活の中で、とまどいや苦労も多いことと思います。そんな留学生たちにとって、家族のように日常にお付き合いいただける県民家庭の存在は、宮城での暮らしをより充実し安心したものにしてくれるのではないのでしょうか。さらに、お茶の間を通じた国際交流は、肩肘を張らずに異文化を理解する絶好の機会にもなります。

今年度は11月7日(土)に、事業説明会と対面会を兼ねた【みやぎの自然環境スタディツアー】を予定しています。ラムサール条約登録湿地である「伊豆沼」の見学や宮城の秋の風物詩である「いも煮会」など内容盛りだくさんなワンデイトリップです。

なお、本事業は、所属する団体(国際交流団体や地域のサークル、または3家庭以上のグループ)を通してお申込みいただくものです。詳細はMIAまでお問い合わせください。



JICA宮城デスクからのお知らせ

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています。)

国際理解の第一歩を、音楽から踏み出そう!「音楽を通して見た国際理解」

音楽が好きな方なら見逃せない全3回のプログラム。国際理解・国際協力における音楽の可能性を探ります。今回限りの参加もOK!参加費無料・要申込(定員/毎回先着40名)。

【第3回】身近で活かそう ~宮城県の学校における実践例~

■日時: 2009年11月3日(火・祝) 13:30~16:00

■会場: 宮城教育大学 2号館 220教室

学校関係者必見!「音楽を通して見た国際理解」最終回は、異文化に対する知識や体験をどのように教育の場に活かすことができるか、学校教育の場に特化して検討します。国際理解教育の音楽における実践を紹介いたします。前回参加しなかった方も参加OK!

■講師: 片平恵氏(利府町立利府小学校教諭)

水池純子氏(仙台市立長命ヶ丘中学校教諭)

お申し込み・お問い合わせ: JICA 宮城デスク佐藤 TEL 022-275-5540 E-mail jicadpd-desk-miyagiken@jica.go.jp

JICA 東北ホームページ: <http://www.jica.go.jp/tohoku/>



9・1宮城県総合防災訓練に災害時通訳ボランティアが参加しました

去る9月1日(火)、登米市迫町の長沼フットピア公園にて開催された9・1宮城県総合防災訓練(主催:宮城県・登米市)に災害時通訳ボランティア5名も参加してきました。この防災訓練は毎年、県内の市町村を巡回する形で行われているのですが、自衛隊、警察、消防なども参加する大規模な総合防災訓練です。

災害時通訳ボランティア5名は、「ボランティア活動支援訓練」の一環として、外国人被災者役と通訳役になり、災害ボランティアセンターのスタッフとニーズの聞き取りシミュレーションを行いました。会場には、通訳ボランティアのほか、宮城県社会福祉協議会、登米市社会福祉協議会、登米市国際交流協会と市民一般ボランティアのみなさんとともに真剣に訓練に取り組みしました。



サポーターの声

災害時通訳ボランティア

今回の「サポーターの声」では、「@MIA」コーナー(同ページ上段)で紹介した「9・1宮城県総合防災訓練」に参加された「災害時通訳ボランティア」のみなさんにお話を伺いました。

村上永花さん(中国語・韓国語)

佐藤愛さん(中国語)

浅野美紀さん(英語)

阿部まりさん(韓国語)

高橋司さん(英語)



村上「全くどんなことをするのか分からずに来ましたが、大地震などの災害時にこうしたボランティア活動があり、どんな通訳をする必要があるのかよく分かりました。」

佐藤「私もよく分かりませんでしたが、災害ボランティアセンターはとても大切な役割を果たしていることが分かりました。知人にも話したいと思います。」

浅野「会議の同時通訳のような非常に高度なことが求められているのではなく、分からないことは確認しながらでもいいとお聞きしていただいぶが楽になりました。」

阿部「昨年に続いて2回目の参加ですが、より多くの災害時通訳ボランティアに参加してもらえればと思います。やはり現場に来ないと分からないことはたくさんありますし。」

高橋「私も2回目の参加ですが、去年の参加でおおよその内容は分かりましたので、準備してきました。防災と一緒に備えあれば憂いなしですね。」

「災害時通訳ボランティア」とは…

県内で大地震等の災害が発生し、外国籍住民が被災した際に、その「ことば」の壁を取り払うため、通訳や翻訳をするボランティアです。13言語、70人ほどの方にご登録いただいています(2009年4月現在)。

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『赤い大地を拓く〜ブラジル移住・宮城県人の100年』

編集:宮城県人ブラジル移住100周年記念誌制作実行委員会
発行:(財)未来の東北博覧会記念国際交流基金

昨年(2008年)は、日本人がブラジルへ移住してから100年という節目の年であり、日本やブラジルでは「日伯交流年」に位置づけられ、様々なイベントが開催されました。そうした中、ブラジル社会において、移住者の方々とその子孫の日系人(約140万人)が着実に根を張り、様々な分野において活躍されていることが改めて認識されました。宮城県からは、戦前に約3,500人、戦後は約700名の移住者がありますが、これまでこうした史実については、「海外移住に牽かれた人々」(1969年 宮城県海外協会発行)、「海外移住家族会30年のあゆみ」(1992年 宮城県海外移住家族会発行)などの資料に記載される程度で、その全体像を俯瞰できる書籍はありませんでした。(実はブラジルの地を初めて踏んだ日本人は、なんと宮城県人です!詳しくは本書をご覧ください。)

MIAが事務局となっている「(財)未来の東北博覧会記念国際交流基金」では、そのような背景を踏まえ、実行委員会を立ち上げる形で本書の発行について企画し、長くブラジルとの友好・交流に携わっておられる「宮城・ブラジル友好協会」の京極昭氏・平岡亨氏・中館寧夫氏に執筆編集作業を、手弁当で引き受けていただきました。1年越しでできた労作が530ページにわたる本書です。寄贈先から寄せられた「宮城県内からブラジルへ移住された方々の軌跡をまとめた素晴らしい本と感服する次第です」という感想が、本書の内容を物語っております。県内の全ての図書館に寄贈しておりますので、是非、お近くの図書館でご覧ください。



法人会員コーナー

株式会社環境開発公社MCM



大崎市古川に事業所を構える株式会社環境開発公社MCM(平成2年創業、本郷雅昭代表取締役)の事業は多岐にわたりますが、ここでは産業廃棄物中間処分業について紹介します。特筆すべき点として、創業早くから感染性廃棄物に着目して業務を確立させ、焼却・破碎・溶融・汚泥造粒固化等の総合プラントとして業務を行っております。また、現在注目されている貴金属およびレアメタルのリサイクル業に着手していること、環境に関する国際標準規格であるISO 14001を取得したことが挙げられます。また、法令遵守を徹底することで環境省が定める産業廃棄物処理業者の優良性評価基準にも適合の認定を受けています。

賛助会員募集

MIA(財)宮城県国際交流協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。

●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員 / 1口 3,000円

団体会員 / 1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙「みやぎの国際情報」(倶楽部MIA)の定期送付(年6回)

◎「MIA多言語かわら版」(日・英・中・韓・葡)の定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加者の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引 (株)ジェイティービー仙台支店 (株)ジェイティービー東北石巻支店 東北海外旅行(株) 宮交観光サービス (株)日本通運 (株)仙台旅行支店

●入会方法

◎本協会あて御連絡ください。

所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.45

編集・発行 財団法人 宮城県国際交流協会

〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

宮城県仙台合同庁舎7階

TEL 022(275)3796

FAX 022(272)5063

E-mail mia@k2.dion.ne.jp

URL http://www.h5.dion.ne.jp/~mia